令和7年度 塩竈市いじめ問題対策連絡協議会 議事録（要旨）

1 日 時 : 令和7年5月23日（金）13時30分～15時00分

2 場 所 : 壺番館1階 市民交流センター5階 2. 3会議室

3 出席者 : 委 員 : 佐藤 福美 (塩竈市人権擁護委員協議会 会長)
櫻井 由章 (仙台法務局塩竈支局 支局長)
佐藤真紀子 (青少年育成塩竈市民会議 常任理事)
鈴木 晶晴 (塩竈市父母教師会連合会 会長)
長峯 清文 (塩竈市福祉子ども未来部 部長)
秋山 治美 (塩竈市教育支援センター「コラソン」スーパーバイザー)
岩渕 克洋 (塩竈市青少年相談センター)

以上 7名

欠 席 : 伊藤 紀子 (宮城県中央児童相談所 所長)
菊地 健介 (塩釜警察署生活安全課 課長)
齋藤 守彦 (塩竈市校長会 会長)

以上 3名

事務局 : 黒田 賢一 (塩竈市教育委員会 教育長)
末永 量太 (塩竈市教育委員会 教育部長)
菊地 英樹 (塩竈市教育委員会 学校教育課 課長補佐)

以上 3名

傍聴者 : なし

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 自己紹介
- 4 会長・副会長の選出
- 5 報告及び協議

(1) 報告

①いじめ防止に係る組織・運営について（確認）

事務局	<p>塩竈市では、平成28年4月に施行された「塩竈市いじめ防止対策推進条例」により、市全体でいじめ防止に取り組もうとする決意を表している。</p> <p>条例により設置する組織は次の3つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第一に、本協議会である「いじめ問題対策連絡協議会」で、関係諸機関及び団体相互の連絡調整を行うための組織である。 ○第二に、「いじめ防止等対策委員会」で、教育委員会の諮問に応じて、いじめ防止等の対策を具体的に審議したり、重大事態に対処して調査を行ったりするための組織である。重大事態とは、子供が自殺または、自殺を企図した場合、そして、いじめを原因として長期欠席をやむなくされている事態で、法律で規定されている。 ○第三に、「いじめ問題再調査委員会」で、重大事態に関する調査結果の報告を受けた市長が、再調査を行うために設置する組織である。
-----	--

②塩竈市いじめ防止基本方針について（確認）

事務局	<p>法第12条において、基本的な方針を定めるよう努めるものとされており、本市では、条例17条により、「塩竈市いじめ防止基本方針」を策定した。</p> <p>方針は、「いじめの理解、いじめの防止等に関する基本的な考え方」、「市が実施する施策」、「学校が実施する施策」、「重大事態への対処」の4つの項目から策定されており、本市はこの基本方針に基づき、施策を実施している。</p> <p>なお、各学校では「学校いじめ防止基本方針」を策定しており、「校内いじめ問題対策委員会」を中心に、よりきめ細やかな対応を実施すべく努力している。</p>
-----	---

③令和6年度におけるいじめの状況について

事務局	<p>令和6年度における本市のいじめの状況の概要として、いじめの認知件数としては、63件、約77%が年度内に解消している。</p> <p>学年別に見ると小学校3年生、小学校6年生、中学校1年生での件数が多くなっている。発見のきっかけはアンケート調査などから、そして、本人、保護者からの訴えが多くなっている。いじめの態様は、冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われることが最も多い結果となっている。</p> <p>このような少ない認知件数になった理由としては、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第一に、平成28年の「塩竈市いじめ防止対策推進条例」施行後の成果の一つとして、教職員のいじめに対する意識改革が進んだことである。 ○第二に、学校でのいじめ防止対策により、いじめは許されないものであるという意識が、児童生徒の中に浸透してきていることである。 ○第三に、本市で平成29年度から本格実施している塩竈市独自の小中連携教育により、児童生徒が通いたくなる「活躍の場」や「交流の場」のある魅力のある学校づくり、「いじめを生まない学級集団づくり」を進めていることである。 <p>今後も、認知件数が少ないことに安心せず、「いじめの正確な認知」を推進し、早期発見・早期対応に努めていく。</p>
-----	---

(2) 協議

①令和7年度におけるいじめ防止の取組について

事務局

令和7年度の本市のいじめ防止の取組として、以下のことを実施していく。

- 「塩竈市いじめ防止対策推進条例」の周知。
- 「塩竈市いじめ防止等対策委員会」の開催。いじめ防止等の対策について協議する場としたい。
- いじめに関する相談体制の整備。児童生徒や保護者への情報提供や連携も積極的に行いたい。
- 教員研修を実施する等、いじめ防止に向けた教員の指導力の向上を図る。
- 「アルカス☆塩釜☆」によるいじめ撲滅活動の支援。「アルカス☆塩釜☆」とは、小学校の児童会と中学校の生徒会の子どもたちを中心とした健全育成のための組織であり、教育委員会と塩釜警察署が連携して支援している。昨年度は塩竈市人権擁護委員の皆様からご協力をいただき、人権問題について広く考える機会を持つことができた。今年度も実施を予定している。
- いじめの実態把握のための調査を実施し、気になる回答には速やかに対応するよう努めたい。
- インターネットを通じて行われるいじめに対する対策を推進する。
- 小中連携の活動をさらに推進していく。小中連携の活動により、小・中学校間で子供たちの状況について細やかな情報交換を行ったり、子供たちの活躍と交流の場が増えることで自尊感情の高揚を図ったりすることにより、いじめの発生を未然に防ぐ。学級生活満足度調査の結果を活用しながら、「いじめを生まない望ましい学級集団づくり」を継続して進めていく。
- 学び合いを通じたケアリングコミュニティの構築。互いに学びを深められる対話的な学びを通して、支え合う関係を育てていく。

各学校においては、いじめ対応計画を基に、いじめの早期発見・早期対応に努めている。

②関係機関におけるいじめ防止等の取組

佐藤 福美委員

塩竈市人権擁護委員協議会は2市3町の人権擁護委員29名で構成されている。いじめ防止に関する取り組みとしては「子供のSOSミニレター」を行っている。これは、小中学校に6月頃に指定の用紙を配布し、保護者や先生も相談できないこと等についてミニレターにして事務局に送ってもらうもの。内容に合わせて人権擁護員がアドバイスをする。また、中学生を対象に人権作文コンテストや小中学生を対象にした人権教室を開催している。

佐藤 眞紀子委員

青少年塩竈市民会議では、中学生を対象とした「少年の主張」を開催している。また、社会を明るくする運動や青少年健全育成活動の啓発活動を行っているほか、塩竈市民の集いを開催し、青少年健全育成の関係団体等を表彰している。今後も健全育成の活動に関係団体と連携をしながら取り組んでいきたい。

鈴木 晶晴委員

地域コミュニティの側面からいじめ防止を考えると、子供会への加入が減少していることについても考えていく必要がある。PTAとしても改善に向けて学校や関係機関と連携して取り組んでいきたい。

長峯 清文委員

保健福祉部は、福祉全般、障害のある方や未就学児、子ども育成支援等の役割を担っている。

昨年度、子ども・子育て施策のさらなる充実や少子化対策を図ることを目的として「のびのび塩竈っ子プラン」策定した。また、要保護児童対策地域協議会の事務局を担当しており、関係機関と連携をとっている。それぞれの取り組みの中で感じることは、家庭環境の変化や児童生徒の自己肯定感や他者に対する思いやりの低下である。これらのことがいじめにつながることも考えられる。今後も福祉の側面から支援ができるように連携を図っていきたい。

岩淵 克洋委員

塩竈市青少年相談センターでは、児童生徒や保護者との電話相談やカウンセラーによる対面相談を行っている。相談の内容は様々あるが、「不登校に関すること」「性格・行動に関すること」の相談が多い。自己肯定感をなかなか持てない子供たちに対して、自信を持たせるような相談活動にしていかなければと考えている。また、不審者情報にも対応している。スクールガードリーダーや地域の方々、教育委員会の職員と連携して見守りを行っている。青少年塩竈市民会議に関することについては、今年度より主管課が学校教育課から生涯学習課に移管したが、今後も教育部全体で連携していきたい。

秋山 治美委員

塩竈市教育支援センター「コラソン」では、何らかの原因で学校に登校することが難しい児童生徒及びその保護者の支援を行っている。昨年度の登録数は30名、すべての学校の児童生徒が在籍していた。そのうち小学校6年生が10名いたが、今年度、中学校に進学して7名が完全復帰した。その他の小学生もすべて学校に戻った。令和7年度は8名でスタートしたが、2名が新規で入り現在、小学生1名、中学生9名の10名で活動している。不登校のきっかけは様々だが、友達とのトラブルや人間関係のトラブル等のきっかけが多い。中には、いじめが起因と思われるものもある。その際、被害児童生徒や保護者の立場に立ち、寄り添いながら迅速、組織的に対応することが大事だと考えている。子供たちは、エネルギーが溜まると次のステップに進む。それを支援していくことを今後も続けていきたい。学校や関係機関の皆様と連携しながらいじめを含む様々な問題にも適切に対応し、不登校を増やさない塩竈を目指していきたい。

③関係機関相互の連携について確認

6 閉会の挨拶（副会長）